

第48回 神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回の作品展の趣旨は、古典詰将棋に含まれる様々な要素を現代の目で再解釈し、フェアリーに活かそうというものです。江戸時代、詰将棋はルールすら未確立な状態から始まり、人智の限界に迫る高度な作品が生まれました。海の物とも山の物ともつかぬ新ルールや、お馴染みとなった定番ルールが共存するフェアリーだからこそ、古典から学ぶ事は多いでしょう。それぞれの作品が古典から何を抽出し、どう再構成したかにご注目ください。

①ばか詰 9手
神無太郎

6	5	4	3	2	1	
				王	桂	一
		銀				二
			桂			三
						四
						五
						六
						七
						八
						九

持駒 なし

※玉以外はすべて成れない中立駒

- 31 n銀、32 n銀、23 n銀、12 n銀、
- 11 n銀、12 n銀、23 n銀、11 玉、
- 12 n香迄9手。

【中立駒】どちらの手番でも動かせる駒。(横向きの字か、

横にnを付加して「**n**駒」と表記。細則は出題稿参照。)

☆象戯造物1番「実戦型から雪隠詰」。

竹園政秀―玉方の手番で銀を動かし頭香でしとめる。
☆未知の物に取り組むとき、人は既知の物を範とします。

詰将棋を作り始めた人々も実戦を参考にしました。実戦に近い形から、詰め易い盤隅で詰める象戯造物1番。中立駒を使う本作もそれを踏襲し、最終手頭香で詰む所まで一致させています。

中澤宣幸―nが大車輪の活躍。岩本修―初手33のnを取ってしまい苦労。さらに最後

同n銀と取られて詰まないと錯覚していました。

☆本作は形こそ実戦型ですが、手順は中立駒特有のもの。先後双方がノンストップで銀を動かして11n香を取りすため、33n桂を取らないルートを選ばねばなりません。なお、最終手12n香を同nと取る手は自玉へ王手する反則。中立駒は敵駒でもあ

るので、玉周辺の着手には常に注意が必要です。

山本強志―n銀の所有権を主張しあうような面白い手順。香は遠打かと思ったが逆。離すとn銀の移動合で詰まないのですね。

☆最終手13n香には12n角や12n桂の合駒が可能。他の中立駒だと合駒が自玉への王手となる反則です。

弘光弘―成れない中立駒なので香でとどめがさせる。

☆n香が成れると最終手に対し17n成で不詰。これも中立駒の手筋です。駒が成らないルールは駒本来の性能を活かせるので、フェアリーでは積極的に使ってきたいですね。中立駒は行き所のない駒にならないので、相性もピタリです。

②ばか詰 11手(駒余り可)
神無太郎

6	5	4	3	2	1	
						一
						二
						三
						四
						五
						六
						七
				王	将	八
						九

※玉以外はすべて
中立駒

持駒 なし

28 n銀、26玉、17 n銀、15玉、
17 n香、16 n桂、24 n銀、25玉、
17 n桂、14玉、15 n香迄11手。

【駒余り可】最後に攻方持駒
が余っても良い。

☆象戯造物4番「実戦型から駒
余りの詰上り」。

☆詰将棋には当初「手余り禁
止」の規則はありませんで
した。不要駒を省くことを
目的としたこの禁則は本来
の意義を失い、形式的な判
定基準だけが残りしました。

必然性があれば駒余りを許
容することは自然なので、
フェアリーでは詰上りに駒

が余る作品が少しずつ見ら
れるようになっていきます。

☆本作の17 n歩にはもちろん意
味があります。これがない

と次の余詰があるからです。

38 銀、29 銀生、18 銀、16玉

29 n銀、18 n金、同n香、27玉、

38 n銀、28玉、29 n金迄。

占魚亭―駒取りが同地点で行

われる統一性がいいですね。

n桂合が活かされた詰上りも

いい。

☆本作は「中立駒は中立駒を
取れる」性質を活用してい
ます。中立駒を取った中立

駒は自身も質駒になるので、

同一地点での駒取りが繰り返

返されます。

須川卓二―16 n桂合、24 n銀

が浮かび難い好手。全て中
立なのは思考外の応手が多
く苦労します。

☆通常駒なら角合や金合を読

みたい形ですが、n角では詰

型を作れず、n金は中段に打

つとn金を逃がす受けが残り

ます。結局①と同様n香で詰

めるのですが、適度に弱い

香が最強の詰駒になるのは

フェアリーらしいですね。

③背面打歩ばか自殺詰 16手

神無三郎

6	5	4	3	2	1	
					王	一
						二
						三
						四
						五
						六
						七
						八
						九

持駒 歩

12歩、13角、21歩成、12玉、
22と、23角、13と、14角、

11角、89玉、88角成、45玉、
89馬、78飛、35と、36歩
迄16手。

【背面】敵駒と背中合わせに

なったとき、互いに利きが

入れ替わる。

【打歩】打歩詰以外の詰手を

失敗とする(単純打歩)。

☆将棋無双15番「打歩詰誘致

の飛合」+将棋図巧99番「盤

面最少配置」。

☆盤上に最小限の駒だけを配

置する裸玉。ばか自殺詰に

おける対応物はもちろん双

裸玉です。盤上の駒が2枚

あるので自由度が高く、裸

玉より凝った手順が実現で

きる出題形式です。

須川卓二―モチーフの匂いが

ちょっと分からないが、手

順は尻角で攻めて大きく盤

面を使う好作。

